

# 最期まで尊厳ある生活を支援

## 福祉施設における看取り介護

高齢や病弱などにより衰弱が著しい場合、医療機関で療養することが一般的でしたが、近年では、看取り介護を希望する人が増え、看取り介護を行う施設が増加しています。人生の最期を迎えるために、施設での看取りがよいのか、病院で最大限の医療を尽くすべきなのか、正解はありません。本人にとって何が幸せな最期なのか、揺れ動く家族の思いを受け止め、日々の生活を支えるために何が必要か。開設当初から看取り介護を行っている特別養護老人ホーム「コスモス苑」を訪ね、看取り介護の現場取材しました。



コスモス苑の「終末期ケア」の職員研修



看取り介護には、プライバシーを保つため全室個室のユニットケアが通っています

**看取り介護とは**  
看取り介護について平成26年に発表された全国老人福祉施設協議会の「看取り介護指針」では以下のように定義されています。「看取り介護」とは、近い将来、死が避けられないとされた人に対し、身体的苦痛や精神的苦痛を緩和・軽減するとともに、人生の最期まで尊厳ある生活を支援すること」。

高齢者介護の基本は「尊厳の保持」であり、特別養護老人ホームは、入居者本人が個人として尊重され、その人らしい生活を送れるよう支援することが求められています。看取り介護もその延長線上にあります。とはいえ、死は人間にとって最も厳かな瞬間であり、終末期の生活を支える看取り期間は、尊厳ある人生を全うするための重要な期間です。看取り介護においては、身体の衰弱に伴い、より手厚い介護と適切な支援が必要になります。ご家族に対しても、悔いのない看取り期間をご本人と



デスクカンファレンスでの振り返りの様子

もに過ごしていただけるよう、丁寧な説明と配慮が大切です。また、看取り介護には、介護保険で決められている看取り加算料金が発生します。亡くなられる前の30日間は7,000円前後の上乗せになり、ご家族の自己負担となります。

**看取り介護の職員研修**  
特別養護老人ホーム「コスモス苑」では、開設当初から積極的に看取り介護に取り組んでおり、過去5年間で33人の入居者を施設内で看取っています。札幌市郊外の閑静な住宅街に位置するコスモス苑を訪ね、生活相談員の新井元規さんと看護課長の中田良子さんに話を聞きました。

「年に1回、看取り介護に関する研修をしています。また、看取り介護の入居者様が亡くなられた後、ご家族にアンケートをいただいたうえで、デスクカンファレンスという振り返りの会議を全職種が集まって実施しています。その経験と話し合いを集積したものを看取り介護マニュアルに反映させて、次の看取り介護に生かす体制構築ができています」と新井さんは

「新人研修の段階から、すべてのケアの一環の中に看取り介護も取り入れています。死を目の当たりにするということは、新人職員であれば身構える部分があるんですが、死に直面した経験がある職員が大多数を占めていますので、ベテラン職員が新人職員を教育して、経験を伝え、実際の看取り介護に入ってもあわてないような教育体制ができています」。

看取り介護研修は特別な教育ではなく、日常のケアの中に根づいているのです。看取り介護を経験することで、施設職員の日常的な介護業務に変化は現れるのでしょうか。

「看取り介護を経験したからといってすぐに何かが変わるということはないんですが、ご臨終を目の当たりにするという貴重な経験をした新しい職員は「襟を正す」ではないですけど、その方の最期まで関わられるというところでのプライドが、いい意味で強化されると思います。日常のケアが丁寧になったり、少なからず影響は出てきます」。

**看護師から見た看取り介護**  
国立の急性期病院で31年看護に携わってきた中田さんは、コスモス苑に来て1年ほどになります。

「私たち看護の世界で習うことは、看取り期には口腔ケアの徹底と、口から食べられなくなるまで最期の時が近いということです。食べられなくなつたときに病院側は胃瘻(いろう)を勧めます。誤嚥性肺炎になりたりすると家族は揺れ動きますね。選択は家族に任せています。がんや心臓疾患などのある方は多量の薬を飲んでいる方が多い。看取りに

言います。